

平成20年度甲斐市普通会計純資産変動計算書解説

《概要》

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部が、1年間でどのように変動したかを表している計算書です。

貸借対照表の純資産の部は、資産を形成するために現在までの世代が負担した部分を表していますので、1年間で現在までの世代が負担した部分が増えたのか減ったのかわかることになります。

また、純資産合計の内訳として「公共資産等整備国県補助金等」、「公共資産等整備一般財源等」、「その他一般財源等」及び「資産評価差額」の金額が純資産合計額の右列に表示されています。

《会計年度中の「純資産の部」の動きを表す計算書》

前年度貸借対照表

資産	負債
	純資産

当年度貸借対照表

資産	負債
	純資産

純資産変動計算書

	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高				
純経常行政コスト	—	—		—
一般財源	—	—		—
補助金等受入		—		—
臨時損益	—	—		—
科目振替				
資産評価替え による変動額	—	—	—	
無償受贈資産 受入	—	—	—	
その他	—			—
期末純資産残高				

変動

平成20年度純経常行政コスト174億5,015万5千円に対して、地方税や地方交付税などの一般財源が147億2,153万4千円、補助金等が33億7,916万5千円ありました。

また、臨時的な利益として公共資産の売却などにより4,378万7千円、無償受贈資産受入れにより432万1千円の受贈益がありました。

これらの純資産の変動により、期首に741億4,416万9千円であった純資産残高が6億9,865万2千円増加し、期末では748億4,282万1千円となっています。

《用語解説》

純資産変動計算書

用 語	解 説
期首純資産残高	前年度末の貸借対照表に計上されている純資産残高と一致。
純経常行政コスト	行政コスト計算書における純経常行政コストと一致。
その他行政コスト充当財源	地方譲与税、地方消費税交付金、地方特例交付金など。
公共資産除売却損益	公共資産を除却した場合は除却した公共資産の帳簿価格、売却した場合は公共資産の帳簿価格と売却額との差額を計上。
投資損失	投資及び出資金の実質価格と取得価格との差額。
損失補償等引当金繰入等	損失補償等引当金として新たに貸借対照表へ計上した額。
科目振替	取得時の財源投入額や処分時の財源増加額を把握し、純資産を構成する科目相互間での資金の異動を明らかにするための項目です。
資産評価替えによる変動額	貸借対照表に計上した資産の評価替えを行ったことにより生じた評価差額です。
無償受贈資産受入	貸借対照表に計上した寄附等により無償受贈した資産の額。
期末純資産残高	当年度末の貸借対照表に計上されている純資産残高と一致。